



教材事例書式

教材教具名 動画紙芝居	教科 ( 生単・国語 )	
<p>教材教具写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
<p>教材教具の概略 ( ねらいと使い方 )      発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ねらい 自分たちが登場して動く動画紙芝居を見せることにより場面に注目させたり、自分や友だちがしている内容に興味をもったりストーリーの流れを理解したりさせる。</li> <li>2 発達段階等      文字は読めなくても視覚優位で絵や写真の理解はある程度ある。</li> <li>3 使い方 Flash をつかって登場人物の自分たちが動く動画紙芝居をパソコン上で作る。 大型液晶 TV やプラズマディスプレイで見せる。 インタラクティブな仕掛けを組み込むことで選択できる等の操作を入れる。</li> </ol>		
<p>児童生徒の反応や教材の評価      使ってみての感想・改良発展のアイデア等 ( 次に利用する方のために )</p>		
<p>【解説】 普通の紙芝居だと、動きがないので、ストーリーの展開が言葉によるものになり、音声言語理解の難しい児童にはページ間のつながり ( 行間を読む ) などのイメージが持ちにくい。動画紙芝居は必要な部分を動かすことで言葉だけではなく視覚的にみせることができる。ペープサートや人形劇の場合、冗長性は知的に重い児童には場面把握ができにくいことも多い。 欠点：ペープサート等と比べると臨機応変の変更の動きは難しい。</p> <p>事前学習を動画紙芝居で作る場合、下見写真に児童の写真を使い動かすことで、事前の段階で自分がそこに行ったイメージを持たせることもでき、より期待をもたせることに役立つ。</p> <p>効果音等を入れることでより興味を持って見る。</p> <p>発表会の配役紙芝居では、自分が期待される配役の動きを分かり、自分の番で期待される動きをすることがスムーズになってきた。</p> <p>さらに先行して見せたことで、こちらが教えたり要求したりしなくても、Flash 内の登場人物の自分の動きを覚えやっけてのける児童もいた。</p> <p>スクリーンで見せる以外にも、動画紙芝居のいろいろなシーンを静止画でプリントアウトし、それを使ったカード学習もできる。</p> <p>インタラクティブな仕掛けを組み込むことは Flash には簡単にできるので、マウス操作でも可能だが、タッチパネル式の画面などの場合は児童に触らせて関わりを楽しむこともできる。</p>		